

撤回された議案

議会運営委員会は 非公開密室同然？！

(前ページからの続き)

「議員定数21人案」と「報酬5%削減案」を二本まとめて提出してきたのは、正確には、北浦議長を除く自民連合9人に公明党永尾議員が同調した10人である。まあぶつけてきたと言う感じだ。

議長に対して提出された議案であるからこれは記録に残る「公式」行動である。

「20人案」・「21人案」・「5%削減案」の3つの議案を本会議日程に組み入れるために1/議会運営委員会が招集された1/26。どの議案から審議するかなど紛糾し調停？休憩に入った。

両議案に関わっていないのは、北浦議長(自)・島田議員(共)・松本議員(社)・安藤議員(元自)の4名。

社共の二人は定数も報酬も削減反対であるから、過半数12名を確保するには、両陣営とも厳しい状況だ。安藤議員が自民に戻れば11となり、可否同数議長裁定で21人と5%は成立だ。しかし安藤議員は今回署名をしていない。

いずれにしても、僕らの20人案が成立しないのは明らかである、説得対象だった自民連合無所属の議員や公明党も既に21人案にサインしてしまったからだ。

21人案の理由を聞いてみたいが、現状23を21までなら削減に応じるが20は無理だということだろう。選挙の時の約束はどこへやら。

(休憩中)僕らは整理して、通らない20人案を出して、混乱を招くより、取り下げ撤回して次回の機会を伺おうということになった。

あくまで20人の理想を目指すか、とりあえず21人案に乗り換えて先ず2名の削減を実現するか……それは各自自由である。

僕らの20人案が通過しないのはほぼ確定だが彼らの21人案は可決の見込みがある。

ここが自民連合の不可思議な噴飯ものの世界だが、彼らも議案撤回を決めたとの情報が入っ

た。「オイオイこのままじゃ21人案が可決するぞ、冗談じゃない！」というわけか。

確認のために、議長室にたむろする自民連合を訪問し「21人案」に乗り換え(21人案に同調)を打診した。20人案は成立しそうにないから次善策として21人案に乗ると明言した。

自民連合が本気で21人定数成立を目指すなら歓迎されるはずだ。「松坂議員は20人ではないのか?」「ぶれていないか?」など言いたい放題だ。「あなたたちは、21人を通したいのではないのか?!協力したい。」と申し出たが既に大勢は決していた。

結果は、両陣営双方議案撤回であった。撤回理由が振るっている。「なお協議の必要があるため。」と。「時期尚早」とどこが違うのか。

5%問題も、出てくれば大方通過するだろう案である。何故21人案を撤回するのか。僕ほか数名が同調を意思表示して、ほぼ確実に可決できるのに、なぜ取り下げるのか。それなら最初から提出しなければいいではないか。半日の議論は何だったのか?どさくさにまぎれて5%削減も取り下げるなんて???

自民連合が僕らの20人案をつぶすのが目的で新人議員たちに先回りしたのだろうが、だらしのないのは選挙中20人を明言していた新人議員たちである。

報告した事実は、飲み屋の世間話ではない。議会の公式会議である議会運営委員会での内容である。テレビが来ないから、ばれなきゃいいさ、と多寡をくくっているのか。議会運営委員会は密室の駆け引きであって、外には漏れないし、漏らしてはいけないなど思い込んでいるのか。認識不足もはなはだしい。

今回の議案取り下げ事件は議会の恥であり、特に自民連合の不可解な行動を白日の下にさらすだけで、彼らをかたくなにいじけさせてしまうだけだから、大げさに公表するのは控えようではないかと穏健な意見を言う者もいた。意味不明である。